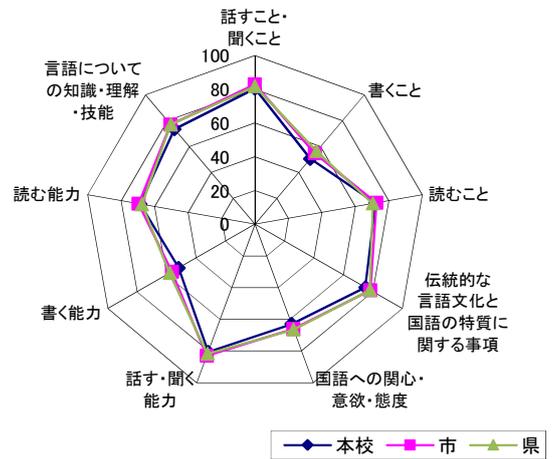


宇都宮市立宝木小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	80.5	82.9	81.8
	書くこと	50.6	54.8	56.5
	読むこと	72.0	72.6	70.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.0	78.4	78.1
観点	国語への関心・意欲・態度	62.9	66.0	66.4
	話す・聞く能力	80.5	82.9	81.8
	書く能力	51.9	56.3	57.9
	読む能力	68.6	69.5	67.6
	言語についての知識・理解・技能	73.7	77.2	77.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、県の平均と比べるとやや低い。</p> <p>○話の中心に気を付けて聞くことの正答率は、県より1.2ポイント上回り、話し方の工夫について注意して聞き取る問題の正答率は、県より2.7ポイント上回っている。</p> <p>●話合いの参加者の発言の共通点をまとめる設問に対する平均正答率は、県の平均を7.7ポイント下回っている。</p>	<p>・話合いにおける発言の共通点をまとめる設問の点数が低いので、国語科の授業のみならず、他教科においても改善の取組が必要である。例えば学級会の中で、あるテーマに沿った話合いをしていく過程で、いくつかの児童の考えを取り上げまとめさせる活動を取り入れるなどして、いくつかの意見を統合することに慣れさせていきたい。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、県の平均と比べると低い。</p> <p>○情報を適切に読み取り、ポスターの文を書く設問に対する平均正答率は、県の平均を1.8ポイント上回っている。</p> <p>●2段落構成で文章を書く設問では平均正答率が、県の平均を11.6ポイント下回っており、無回答率も21.8%となっている。</p>	<p>・国語の授業の中で、物語文の初発の感想を字数制限を設けて書かせたり、思ったことを文章にして書かせたりするなど、文章を書く機会を多く与えていきたい。</p> <p>・作文を書く機会を多く与えることで、順序立てて作文を書くことに慣れさせていく。そのために、各学級において取り組んでいる一行日記などの取組をより充実させていく。その中で、作文用紙の使い方などの方法についても触れていく。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、県の平均と比べるとやや高い。</p> <p>○登場人物の気持ちを読み取る設問の平均正答率は84.2%で、県の平均を9.2ポイント上回っている。また、文章の内容を的確に読み取る設問の平均正答率は76.2%で、県の平均を6.4ポイント上回っている。</p> <p>●場面の様子を読み取る設問の平均正答率は75.2%で、県の平均を6.2ポイント下回っている。</p>	<p>・人物の気持ちを読み取ることの点数は高いが、その場面の様子を読み取ることが困難であるため、授業の中で、「いつ」「どこで」「だれが」「なにを」しているのかをはっきりさせながら授業を展開していく。また、場面分けに時間をかけ、児童から意見を引き出せるようにし、全児童が話の展開を理解しながら進めていけるようにする。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>平均正答率は、県の平均と比べるとやや低い。</p> <p>○文の構成(連体修飾語)に関する設問の平均正答率は75.2%で、県の平均を6.3ポイント上回っている。</p> <p>●漢字の読み書きに関する設問の平均正答率は、県の平均とほぼ同等のものもあるが、「唱える」の読みを答える問題では県の平均を21ポイント下回っている。さらに、「希望」と漢字で書く設問では、10.2ポイント下回っている。</p>	<p>・設問によっては、平均回答率が県の平均とほぼ同等のものもあるが、漢字によっては習得率が低いものもある。定着率を高めるために、国語辞典や漢字辞典を使用する機会を増やし、意味や由来などを含めて指導していく。また、学期末の漢字のまとめを充実させる。テストをするだけでなく、繰り返し復習できるように補助プリントに取り組ませたり、間違いをそのままにせず声掛けをして練習させたりする。</p>